

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/02 ～2018/09/30)

1. 勉学の状況

9月20日にフランス語の授業のクラス分けテストがありました。テストの内容は最近のバカンスでしたことと将来やりたいことについての作文、先生とのフランス語での面接の2つでした。私は会話がとても苦手なので、3つのレベルの内1番下のレベルのクラスに入れられると思っていたのですが、作文が良かったのか、真ん中のクラスに入れられてしまいました... 24日には授業も始まり、不安な気持ちで授業に臨んだのですが、どの先生も優しく、しっかり聞き取ることさえできれば授業にもついていけるので、予習と復習を怠らず頑張っていきたいと思います。ただ、会話の授業は結構ペラペラ話せる人が多くついていくのはとても大変です。ここが今後1番の課題となってくると思うので少しずつ会話の機会を増やして上達させていきたいと思ます。

24日からは文学部の授業も始まりました。当初は4つの授業をとる予定だったのですが、1年生向けのフランス文学の授業と歴史の授業は人数が多くてあまりよくないと言われ、受講をやめました。今は20世紀のフランス文学、フランス語圏の文学の2つの授業を受講しています。正直単語は聞き取れるのですが、文章として理解できるレベルではなく、自分のフランス語力に愕然としました。クラスメートに声をかけ、ノートを書かせてもらったり、先生が配布したレジュメを見返したりして勉強しています。また、フランス語圏の文学の授業は3冊参考図書があるので、それを少しずつ読むことも予習としてやっています。まだまだ始まったばかりで分からないことも多いので少しずつ慣れて授業についていきたいです。

また、授業を受け始めて気付いたことがあります。それはこちらの学生が積極的に発言をするということです。先生が話している最中でも分からないことがあれば手を挙げ、先生もそれに気づいて、切りの良いところで生徒に質問する時間を与えてくれます。日本ではあまり見ない光景なので少し驚きましたが、このような学習の仕方は大切だと思います。私はまだこのレベルには達していませんが、常に考え、意見や疑問を持ちながら勉強していきたいと思ます。

2. 生活の状況

大学のセメスターの始まりが9月7日だったこと、遅くとも12日までに手続きに来るようにとパリ東大学のコーディネーターの方から連絡があったことを踏まえ、余裕をもって9月2日に渡航しました。当たり前のことですが、生活様式や気候の違いに慣れなかったり、会話を上手くできないことに戸惑ったりとまだまだ不安なことばかりです。また、寮の築年数が長いせいか、入居数日で洗面所や台所で水漏れが発生しました(笑)日本ではなかった経験だったので驚きましたが、修理してもらうために拙いフランス語でも状況を伝えるということをし、生活の一つ一

つも勉強だと日々実感しています。

長期滞在において重要な手続きがたくさんあるため、少しずつ記していきます。

1. 滞在許可証

日本でビザを取得しましたが、こちらは滞在許可証としての効果が不十分であり、こちらに到着してからビザを有効にする手続きが必要になります。まず大使館に提出し、ビザを取得時に返送されてきた OFII（移民局）提出用フォームに必要事項を記入し、パスポートとビザ、入国日が分かるページをコピーしたものと一緒に近隣の OFII に簡易書留で郵送します。その後受領証が届き、さらに Convocation（召喚状）が届いたら OFII に出向いて手続きをします。私も到着してすぐに郵送し、受領証を受け取ったのですが、まだ Convocation が届いていません... 続きは来月の報告書で書きたいと思います。

2. Contribution Vie étudiante et de Campus の支払い

今年からフランスでは学生社会保険がなくなり、フランスの高等教育機関に入学する学生も総合社会保険に加入することになったそうです。加入は無料なのですが、別途 90 ユーロを CROUS に支払う必要があります。これはオンラインで簡単に支払いができます。保険はまだ加入していないので来月の報告書に書きます。

3. 在留届の提出

こちらは ORR net というサイトから簡単に提出できます。

4. 銀行口座開設

先輩方の報告書やインターネットの情報から、日本人スタッフがいる支店での開設がベストだと考え、LCL 銀行の Pyramides 支店で口座を開設しました。フランスでは銀行の口座開設の際に予約を取るのが一般的ということで、私も渡航後すぐに電話で予約したのですが、9月は留学のシーズンということで、予約が取れたのは約2週間後でした。

5. スマートフォンの契約

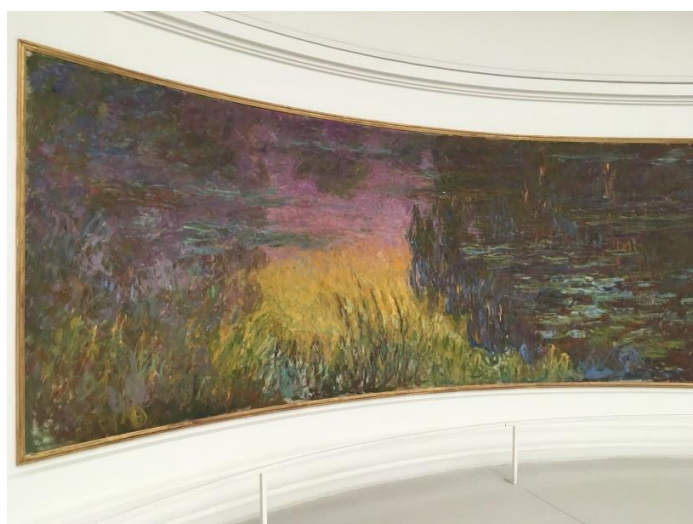
私は以前から使用していたスマートフォンのSIMを入れ替えて使用するつもりだったので、渡航前に SIM ロック解除と日本の番号とアドレス保管の手続きを済ませておきました。フランスにも日本同様大手キャリアが3つありますが、私はその3つとは異なる Free という会社の格安 SIM を購入しました。というのもこの会社の SIM カードは店頭の機械で簡単に購入できる上に、月額使用料も約 2500 円ほどだったからです。最初は1ヶ月使用して見て様子を見ていたのですが、データの使用もほぼ無制限で、速度も速いので契約を延長しました。

こちらに来てから寮に住んでいるのですが、私の部屋は2人部屋でルームメイトは中国人の女の子です。彼女はとても優しく、夕食も交互に作って一緒に食べています。彼女はフランス語がほとんど話せないで英語で会話しています。寝室はそれぞれに割り当てられていますが、それ以外は全て共用スペースになっています。音や声などはすぐに伝わってしましますが、パーソナルスペースはしっかり確保されているのでストレスを感じることはほとんどありません。

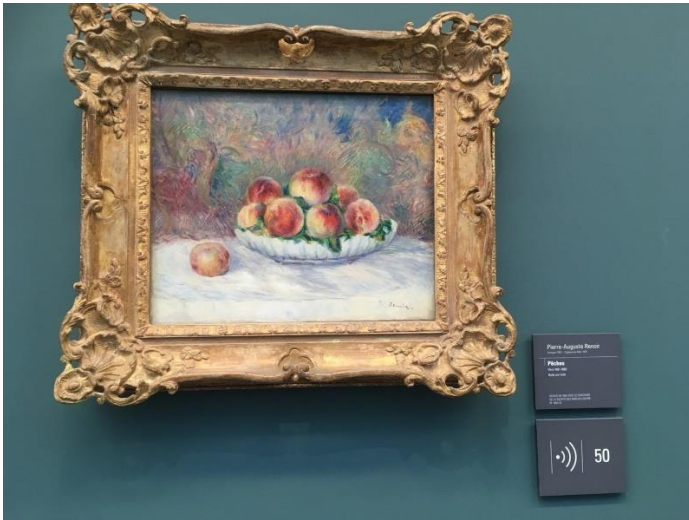
こちらに来て1ヶ月、いろいろなことがありました。留学生向けの Welcome Day があり、日本人の留学生や様々な留学生と交流する機会を得られました。さらには日本人の留学生の友人で、日本語を勉強しているフランス人や留学生とも知り合うことができました。ただ、話をできる人が増えていくことはとても嬉しいことなのですが、こちらに留学している学生はみんな英語もフランス語もとても流暢で、正直聞き取れず、会話から置いていかれることもよくあります。また、手続きの場面ではフランス語が難しく、全く理解できないことも多々あり、正直辛いと思うことが多いです。日本が恋しいなと思うことも多いですが、日本にいたら絶対に感じる事ができなかった感情や新たに気づくことがたくさんあり、留学に来てよかったと思っています。今後は授業はもちろんのこと、周りの学生とたくさんコミュニケーションをとれるようにフランス語も英語もたくさん勉強していけたらと思います。

少し観光もできたのでいくつか写真を載せておきます。

オーランジュリー美術館での写真↓



クロード・モネ 「水蓮」



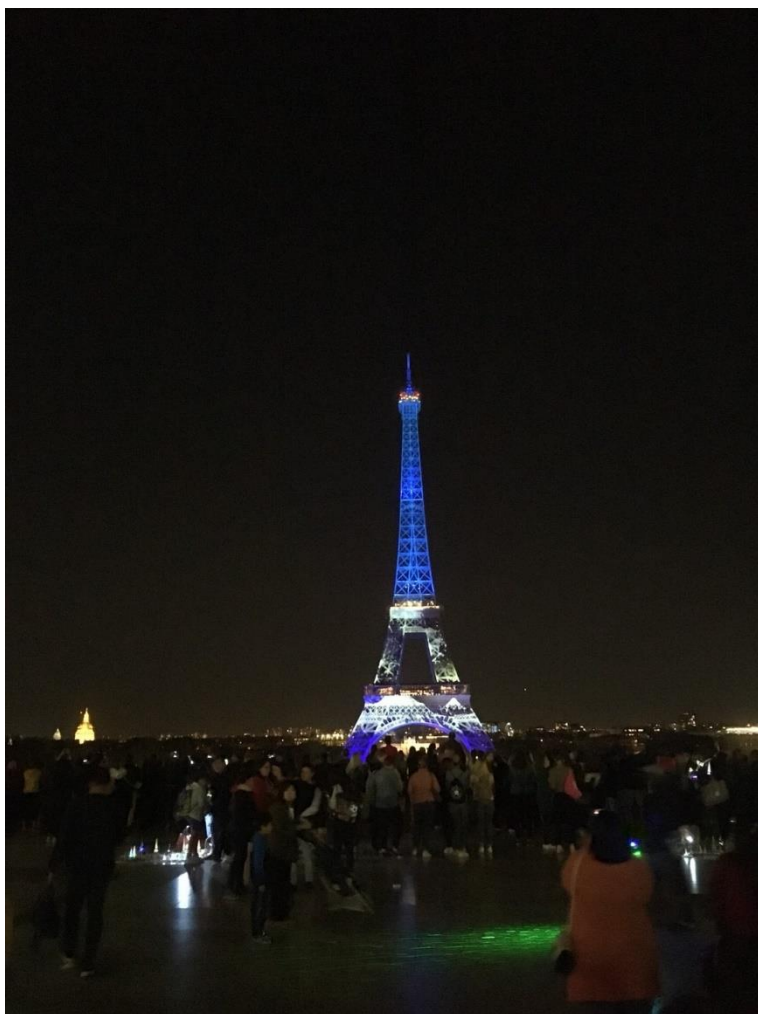
ルノワール 「桃」



ルソー 「ジュニエ爺さんの二輪馬車」



こちらは美術館近くのコンコルド広場から撮影した写真です。遠くに小さく凱旋門が見えます。



先日2日間限定で行われていたエッフェル塔のジャポニズムのイベントでの写真です。





こちらの写真はパリを歩きながら撮影したものです。建物がとても美しく、日本とは全く異なる街並みなのでいつ歩いても新鮮で楽しいです。来月以降はもっといろいろな場所に足を運べたらと思っています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/01 ～2018/10/31)

1. 勉学の状況

10月に入り、授業にも少しずつ慣れてきました。Etude francophone の授業では現在 Aimé Césaire の《Cahier d'un retour au pays natal》という詩を読んでいるのですが、10月後半のバカンスの前に課題が出されました。課題は《Commentaire Composé》と言って、指定された範囲を読み、自分で問題提起をしていくつかの項目に分けて分析していくというものです。この作品は詩と散文が入り混じった文体である上に、作者の Césaire の造語やフランス語ではない単語も使用されており、理解するのがとても難しいですが、作者や作品について何度も調べ、少しずつ課題をこなしています。

フランス語の授業では10月に小テストが行われました。この授業はセメスター終わりの試験がない代わりに1セメスター中に3回の小テストが行われるそうです。口頭表現以外の授業は小テストがあったのですが、特に文章を読んでその理解度が問われるテストが難しかったので、テストが返却されるのが怖いのです。やはり語彙力やリーディングの遅さが弱点だと思うので、少しずつ克服していけたらと思います。

また10月から、Options Transversales という教養展開のような授業も始まりました。私は運動をしたくてヨガの授業を取ることにしました。以前に UPEC に留学されていた先輩が取られていた美術館を巡る授業や、文化交流の授業も興味深かったのですが他の授業とかぶっていたので第2セメスターで取りたいと思います。

さらに UPEC の Tandems bilingues という言語交換プログラムに参加し始めました。このプログラムは自分の学びたい言語と母国語(教えた言語)を登録し、それがマッチする相手とペアを組んでお互いに言語を学ぶというものです。私は違うキャンパスのフランス人の男子とペアを組んで週に1度色々なところででかかっています。私は会話を上達させたいので、フランス語で色々な話をしています。

2. 生活の状況

9月に引き続き、行った手続きについて書いていきます。

1. 滞在許可証

10月に入ってからやっと Convocation が届きました。Convocation で rendez-vous の日程が指定されるので、その日に OFII に出向いて手続きをします。手続きの際に timbre の購入(60€)が必須とされているので、近くの tabac かインターネットで購入します。私は rendez-vous が11月の頭なのでまた来月続きを書きたいと思います。

2. 銀行口座開設

口座開設手続きの後、カードを受け取り、無事に使えるようになりました。先月の報告書で記入し忘れていたのですが、フランスの銀行は日本と異なり、現金の入金の制限がとても厳しいです（現金は出所が分からないため、書類の記入が必要となります）。したがって口座への入金、自分あるいは家族の持っている口座から送金しなければならないので注意が必要です。また、私の利用している銀行は口座開設の際に500€のデポジット（これは現金も可でした）が必要でしたが、手元に現金が500€もなかったため、両親にすぐに送金をお願いしました。

3. 通学定期購入

パリには Navigo という定期があります。これは日本の Suica などとは異なり、指定されている zone においてバスやメトロなどに乗り放題のカードです。カードにはいくつか種類があり、zone や利用期間が異なるのですが、私は1年間有効でパリ全域で利用できる学生定期を購入しました。こちらは学生証と証明写真があれば窓口でもインターネットでも簡単に購入できます。

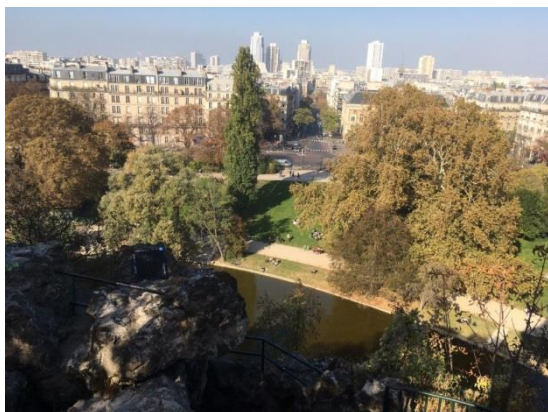
10月の半ば頃に友愛アソシエーションという日仏交流のアソシエーションに加入しました。これは先輩の報告書を読んで知り、自分のフランス語を上達させられると思ったので、Facebook からコンタクトを取って加入しました。このアソシエーションは週に2回の交流会と週に1回フランス語と日本語の授業を行っています。フランス人とも日本人とも交流できるのでとても有意義な時間を過ごせます。私はなるべくフランス人とフランス語で色々な話をするようにしています。まだまだ難しさもあるのですが、私が理解できなかつたらゆっくり話してくれたり、拙いフランス語でもちゃんと聞いてくれたりするのでフランス語のいいトレーニングになっています。

10月に入ってから特にフランス語に触れる機会を増やす努力をしていますが、やはりまだまだフランス語を聞き取ることや言いたいことを伝えることに困難をととも感じます。「留学」というものをなめていたわけでは決してありませんが、比較的消極的でインドアな私にとって留学自体が生まれて初めての挑戦だったので、上手くいかないことに落ち込むことばかりで正直辛いと感じることがたくさんあります。「留学辞めたいな」と思う瞬間も何度かありましたが、この経験を通じて自分自身と向き合うことができているように感じるので、これからも留学生活でたくさん勉強して、たくさんの感情や価値観に出会えたらいいと思います。

少しネガティブな話もしましたが、友人もできてきたのでジャポニズムのイベントに足を運んだり、Tandem のペアの学生と一緒に色々な場所に行ったり、10月はアクティブに過ごすこともできたと思うので、写真も紹介していきたいと思います。



これはフランスで行われていたジャポニズムのイベント《Matsuri》に行ったときの写真です。地域ごとの出店があったり、盆踊りなどが披露されたりしていてとても楽しかったです。地域の盆踊りなどではフランス人も多く参加していて、母国に興味を持ってくれるフランス人が多くいることに驚きを感じつつも嬉しさを感じました。



こちらは Tandem のペアの学生と一緒にいった公園です。とってもきれいな公園で、眺めもとてもきれいでした。この日は天気も良く、日向ぼっこやピクニックをしている人たちがたくさんいました。日本ではあまり大きな公園でゆったりと休日を過ごす、ということがなかなかないので新鮮で気持ち良かったです。



こちらはフォンテーヌブロー宮殿の写真です。ナポレオン 1 世の博物館やきれいな庭もあり、歴史的な宮殿でとても興味深かったです。こちらの建築様式や内装は日本の伝統的なものとは全く違うので何度見ても飽きないし、歴史上の世界に入ってしまったような不思議な感じがします。また、このような歴史文化に触れると自分の知識の浅さも感じます。これをきっかけにフランスやヨーロッパの歴史についての知識をもっと増やしていけたらと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/01 ～2018/11/30)

1. 勉学の状況

11月の初めに今セメスターの期末テストの登録をしました。UPECでは千葉大学のように、普通の学生はインターネットで授業登録などができるのですが、留学生はできません。なので授業の登録の際はコーディネーターに用紙の提出が必要で、テストの登録の際は事務の方に届け出をしなければいけません。少し面倒ですが、手続きが上手くいったので安心してしています。

文学部の授業はやはり難しいですが、以前よりも聞き取れる単語や理解できるフレーズは増えてきたように感じます。しかし聞きながら書き取ることが難しいため、結局聞き取ったことを忘れてしまったり、ついていけなくなってしまうたりしています。また、参考図書を少しずつ必死に読み進めています全く終わりが見えません、、、(笑)セメスターの初めの方は読むのをさぼっていたのでそのつけが今回ってきているように感じます、、、まだまだ読むスピードが遅いですが、少しずつこなして行って1月のテストに備えたいと思います。

フランス語の授業では定期的にミニテストが行われています。ライティングと文法のテストはあまり悪くなかったのですが、やはり苦手なリーディングのテストは点数が半分にも届きませんでした。少しずつでも語彙力と読む速さを上げていければと思います。また、オーラルの授業ではプレゼンテーションを行いました。テーマは自由だったので、私は日本とフランスの違いについて自分が感じたことや、周りのフランス人から聞いたことについて話しました。UPECには留学生がとてたくさんいるのですが、日本人の留学生は珍しいためか、クラスメートも先生もとても興味を持ってくれました。クラスメートに日本に行ったことがある子が1人いて、彼女は日本人が車も通っていないのに赤信号でずっと待っているのは変だなと感じたそうです。というのもヨーロッパの多くの国では、大体の人は車が来てなければ赤信号でも横断歩道を渡るからです。このように日本だと当たり前のことが他の国ではおかしいこともたくさんあるので、自分の国について知ってもらったり、お互いの文化について話し合ったりすることは新しい発見もあり、自分の国を客観的に見ることでとても有意義だと思いました。

またフランス語の授業の一環として毎週金曜日の午後にパリの街や文化について学ぶ授業があります。これは実際にパリの街を歩きながら先生が建物の歴史について話してくれたり、美術館に行っているような作品を見たりと週によって様々です。この授業は強制ではないのですが、他の留学生と会話をする機会ができたり、パリの文化についての知識を深められたりするのでほぼ毎週参加しています。最近ではクリスマスも近づいてきたのでGalerie Lafayetteのクリスマスのデコレーションを見に行ったり、オルセー美術館で印象派などの作品を見たり、香水博物館で香水の歴史を学んだり、どれもとても興味深かったです。最後に写真も載せたいと思います。

2. 生活の状況

手続きについて書いておきます。

1. 滞在許可証

先月の報告書で、11月の頭に滞在許可証を取得する手続きがあると書きました。そこで指定された日に手続きに行ったのですが、「来週また電話するので指定された日にもう一度来てください」と言われました。理由はよく分からなかったのですが、次の週の電話を待つことにしてその日は帰りました。結局連絡は来ず、こちらから電話しても繋がらず、2週間後くらいにやっとメールで連絡が来ました。滞在許可証の手続きは3ヶ月以内に行うように言われていたので焦りましたが、次の手続きで無事に滞在許可証を取得できればと願うしかなさそうです。周りの友人はそもそも返事が来ない人などもありましてさすがフランスだなと感じています。

2. その他手続き

その他の手続きとして国民保険への加入と住宅補助の手続きがあります。しかしこれらはどちらも滞在許可証を取得していないと手続きができないようなので、詳細はまた後日記載します。

今月に入り、寒い日が続いています。体感気温が0度近くになることもあるのでコートを購入しました。また、雨も強くないですがよく降るのでハイカットの防水のブーツを買いました。私の住んでいる地域はパリの中心部から少し離れているのでお店などはたくさんありませんが、最寄り駅の2駅先にらぼーとのようなショッピングモールがあり、H&MやZARA、Bershkaなどが入っているので買い物には全く困らないです。衣類だけでなく日用品もそこで揃うのでとても便利です。さらに今月に入って母が仕送りをしてくれました。海外への荷物の宅配はとてもお金がかかるのですが、スーツケースたった一つで渡航したため、持っていけないコンタクトレンズや書物、衣類などを送ってもらいました。またインスタントのお味噌汁やご飯なども送ってもらえたので、日本食が恋しくなった時や時間がない時に少しずつ食べています。

また、最近気になり始めたのがルームメイトとの感覚や文化の違いです。共有スペースの掃除を全くしなかったり、バスルームの床が拭いてと言ってもびしょ濡れだったり、食器を拭かずに棚に入れたりなど日本では有り得ないなと思うことが多々あります。個人の問題か、文化の問題かは分かりませんが、驚くことばかりで少しストレスに感じることもあります。ですがこのように他人と生活するという経験はあまりできることではないと思うので、伝えることは伝えつつ、我慢することは我慢して上手くやっていたらと思います。ただ、日本人はきれい好きな人が多いと思うので、このような違いなどに敏感な人は絶対に一人暮らしをすることをお勧めします(笑)

最後に今月訪れた場所の写真を載せておきます。まず先月の終わりから今月の頭にかけて Toussaint のバカンスがあったので、千葉大学の学科の先輩が住んでおられる Rennes に旅行し

ました。Rennesの町を案内してもらったり、ガレットやクレープを食べたり、留学の相談に乗ってもらったりしました。また、ずっと行きたかったモンサンミッシェルにも行くことができ、いいバカンスを過ごすことができました。

↓こちらはレンヌの街並みです。パリとは少し違う趣があります。





ブリュターニュ地方で有名なガレット



クレープ



↑モンサンミッシェルです。近くで見るとやはり壮大で素敵でした。



↑オムレツです。有名な店ではないと思いますが、高くなく美味しかったので満足です。



↑こちらはTandemの学生と行ったパリのある通りです。写真ではあまり伝わらないのですが、ありふれたパリの街並みとは違う雰囲気が漂っています。



↑こちらは Galerie Lafayette のクリスマスツリーです。装飾は毎年変わるそうです。



↑こちらはオルセー美術館の写真です。元々は駅だったため、このように大きな時計が残っているのだと思われます。



↑ルノワール『ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏場』



↑ 香水博物館です。装飾もクリスマス仕様でかわいかったです。



↑ 偶然セーヌ川の近くを通りかかった時に撮影したものです。遠くにライトアップされたエッフェル塔が小さく見えます。夜のパリならぜひ、セーヌ川のほとりを散歩してみてください。

留学も早 3 ヶ月が経過しました。もっともっと勉強できるはずだと思うので、時間を無駄にせず、体調に気を付けながら、もっともっと成長できるように自分から行動していけたらと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/01 ～2018/12/31)

1. 勉学の状況

文学部の授業ではテストの日程が発表されました。1月に入ってすぐということで、年末年始も気が抜けませんでした。フランス語圏の文学の授業では前回のレポートが返却され、先生からいくつかアドバイスをいただきました。まず何よりもフランス語に問題があるということでフランス人の友人に文法の誤りを厳しく指摘してもらい、見直しました。また *commentaire composé* は小説や詩などの作品の指定された範囲について自分なりの問題提起をし、その問題について分析をしていくのですが、私の書いたものは文学的分析が足りないという指摘もいただきました。最後に再び新しい課題が出されたので、今回はその点に注意して書いていますが、文章の内容も私にとってはとても難しいため、文学的分析を行うのはとても大変なのですが、前回よりも良い点数が取れればと思います。また、レポートを書いて自分の表現の幅がとても狭いと感じます。日本語でこういうことを言いたいけど、フランス語で表現するのは難しい、といった具合です。こちらに来て4ヶ月ほど経ちますが、まだまだ勉強が足りないと感じるので残りの留学生活で読書やリスニングの時間を増やし、表現力が身につけばと思います。

フランス語の授業は12月中に3回目のミニテストも行われ、授業が全て終了しました。最後の授業ではクラスメートと先生で写真を撮ることもでき、このクラスで授業することがもうないと思うととてもさみしかったです。私のクラスメートは国籍が様々で、授業の中で時々話題にあがるそれぞれの国の特産の文化であったり、言語であったり、そんな環境に常に新鮮さを感じるクラスでした。ただ、引っ込み思案な私はあまり周りの学生に話しかけていくことができなかったので、仲良くなれた学生は少なかったです。第2セメスターではもう少し積極的に話しかけたり、友人を作ったりできたらと思います。

12月の初めに文学部のコーディネーターの方に呼ばれ、第2セメスターで受講する授業を決め始めるようにと言われました。また、4月に行われる文学部の文化祭のようなものに、留学生チームとして参加しないかと誘われました。この文化祭は過去に先輩が参加されたと伺っていたので興味があり、私も参加することにしました。12月のうちに現時点で参加が決まっている学生とコーディネーターの方で話し合いの場が設けられました。準備は第1セメスターが終わった1月から始まるようなので、詳しいことは来月の報告書に載せたいと思います。正直周りの学生の語学力がとても高いので、会話についていけるか不安ですが、会話の機会が増えるところはとても楽しみなので、少しずつ会話力も上げていけたらと思います。

文化体験の最後の授業ではそれぞれの母国でよく食べられている料理を持ち寄ってパーティが行われました。私は日本に住んでいた中国人の学生と協力して肉じゃがを作りました。周りの学生にとってもおいしいと褒められたり、レシピ教えてと言われたり、やはり日本食は人気があ

るのだなと感じました。また様々な国の料理を食べることで、それぞれの国の新しい一面を知ることができてとても楽しかったです。

2. 生活の状況

手続きについて書いておきます。

1. 滞在許可証

12月10日に OFII で手続きを行い、ようやく滞在許可証を取得できました。やっと、という感じですが無事に取得できて本当に良かったです。インターネットなどで調べていると手続きの際には書類の提出し、健康診断を受けると書いてある記事が多かったのですが、私は書類の提出のみでした。帰宅してから本当に大丈夫かなと心配になり、OFII にメールを送り、フランスにいる日本人の友人にも聞いてみました。友人の話によると健康診断は受けなくてもよいらしく、問題はないことが分かりました。ただ、OFII からは返信は帰ってこず、やはり日本とは仕組みだったり対応だったり違うなと感じます。

2. その他手続き

国民健康保険の加入手続きを行いました。インターネットから写真あるいは PDF で書類を提出することができます。必要な書類は①学生証②パスポート③学生ビザ④戸籍謄本の翻訳⑤滞在許可証⑥RIB（これはフランスの銀行口座の情報です）です。現在審査中ということでこの書類で大丈夫なのかは今のところ不明です。来月詳しく載せたいと思います。また、住宅補助については申請が難しいためこちらの友人に年が明けてから手続きを手伝ってもらうことにしました。なのでこちらも来月記入します。

先月から今月にかけて、フランスでは毎週デモが起こっています。先月マクロン政権が自動車燃料増税を宣言したことにより、それに反対する住民が黄色いベストを着用して抗議運動を起こし、それが全国規模に拡大していったようです。この抗議運動のメンバーの中には過激な集団も存在し、建物の破壊、放火なども発生したようで、これを鎮めるために催涙ガスが使用されるなど、危険な状況が続いていました。幸い私の住む地域は繁華街から離れているので、被害を受けることはありませんでしたが、この抗議運動は日本でも大々的に報道されたようで、家族や友人が心配して連絡をくれました。また、これに加えてフランスで最も規模の大きいクリスマスマーケットの一つでもあるストラスブールのクリスマスマーケットで、銃撃事件が起こりました。日本にいても様々な事件が発生していると思うので、フランスがとりわけ危険だとは思いませんが、様々な宗教の問題なども存在するので、今後も自分の身を守るように、危ない場所に出向いたり、一人で大勢の集まる場所に行ったりしないように気を付けていきたいと思います。

また先月よりもさらに寒さが厳しくなり、少し体調を崩してしまいました。日本にいればすぐに自分にあった薬をもらえるのに、、、、と思います。自分の生まれた国、慣れ親しんだ国を離れるという経験をし、より一層母国のありがたみや日本での生活は恵まれた環境であることを感じて

います。今後は風邪をひかないようにしっかり栄養のある食事と規則正しい生活を心がけようと思います。

先月の報告書ではルームシェアのデメリットを書いてしまいましたが、デメリットばかりではありません(笑)12月24日はクリスマスイヴだったので2人でクリスマスマーケットへ行きました。そこでお互いにプレゼントやお菓子を買ひ、夜はケーキを食べてプレゼント交換をしました。クリスマスと年末年始の休暇に帰国する人もいますが、私たちは2人ともフランスに残る予定だったので楽しいクリスマスが過ごせてよかったです。年越しのカウントダウンは行ってみたかったのですが、テロやデモなどが続いていたこと、課題に追われていたことで今回は断念することにしました。

いくつか写真を載せておきます。



↑クリスマスマーケット近くの Défense の街並み。中心部と違って高層ビルだらけでした。



↑クリスマスマーケット。とっても可愛らしい装飾が印象的でした。



↑ルームメイトとケーキとマカロンでクリスマスをお祝いしました！
ネックレスをもらい、アロマキャンドルをプレゼントしました。



↑こちらは Provins の中世のクリスマスマーケット。現代の洋服ではなく、中世の衣装で訪れている人もたくさんいました。



↑こちらはリンゴジャムを作っている様子。中世と同じ方法で作られていました。実際に作っているところを見られたのはとても貴重な体験だったと思います。



↑ツリーも。街並みもパリの中心部とは少し違っていて趣を感じました。



↑こちらはパッサージュです。ガラス屋根に覆われたアーケード街で19世紀の雰囲気を感じます。クリスマスが近かったのでイルミネーションがきれいでした。



↑可愛らしいお店やレトロな小物などもたくさんあって何度来ても飽きない場所だと思います。

留学生活ももうすぐ中盤に差し掛かろうとしています。悔いのないように1日1日を過ごしていけたらと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/01/01 ～2019/01/31)

1. 勉学の状況

1月の頭に文学部の期末テストがありました。第1セメスター中に受講していた2つの授業ではそれぞれ3冊ずつ詩や小説を扱っており、それに関する問題が論述形式で出題されました。それぞれの作品の内容についての問題というよりは、作品に触れながら作品が描かれた背景や当時の文学の流れなどについて問うような問題だったように思います。フランス語圏の文学の授業では、自伝的な作品を扱っていたので、フィクションと自伝の境界について問う問題や、扱った作品同志を比較して分析するという論述問題が出題されました。20世紀のフランス文学の授業では、扱った作品が不幸な愛の詩についての詩的ビジョンをどのように新しくしたかを問う問題などが出題され、20世紀の文学界において代表的な作品が果たした役割などが問われているように感じました。テスト中も留学生は辞書の使用が可能だったのですが、作品全体への理解が浅かった上、論述はとても難しかったので、何度も書き直して、まとめるという作業を繰り返していると全く時間が足りませんでした。満足のいく結果になったとは思えませんが、1月の最終週から文学部では2セメスターの授業も早速始まったので、気持ちを切り替えて次回はしっかり深く理解してテストに臨めたらと思います。

第2セメスターでは比較文学のイントロダクションの授業と言語学のイントロダクションの授業を取ることに決めました。比較文学の授業ではタヒチに関する作品を通して作品を比較していく授業なので、参考文献を少しずつ読み進めていこうと思います。また、言語学の授業は文学とは少し離れるのですが、興味があったので受講してみることにしました。難しそうなのですが、フランス語を深く知る機会になると思うので楽しみです。フランス語の授業は2月の半ばから始まるのですが、今のところ第1セメスターと同じ中級クラスの読解、文法、オーラル、ライティングの4つの授業を受講する予定です。

2. 生活の状況

手続きについて書いておきます。

1. 国民健康保険

手続きが無事に済み、メールを受け取りました。今後は病院にかかった際、日本と同じ3割負担でほとんどの治療ができます。

2. 住宅補助

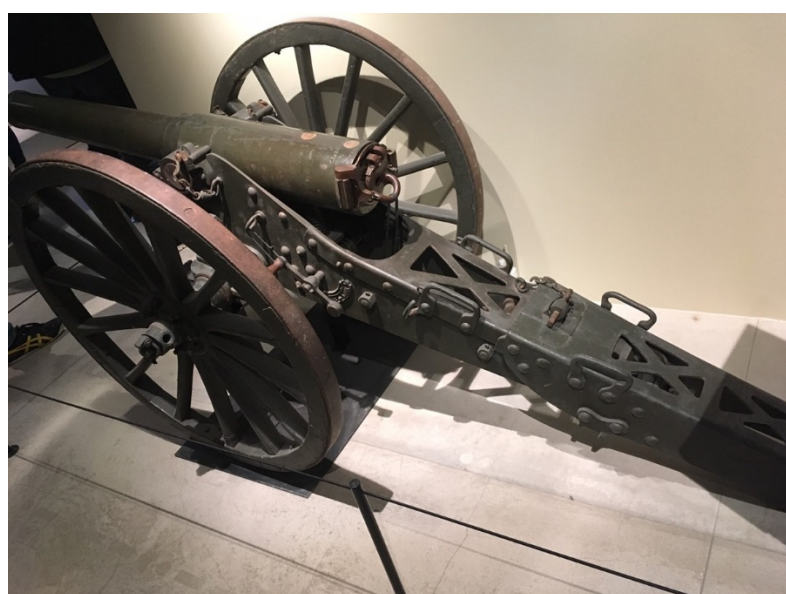
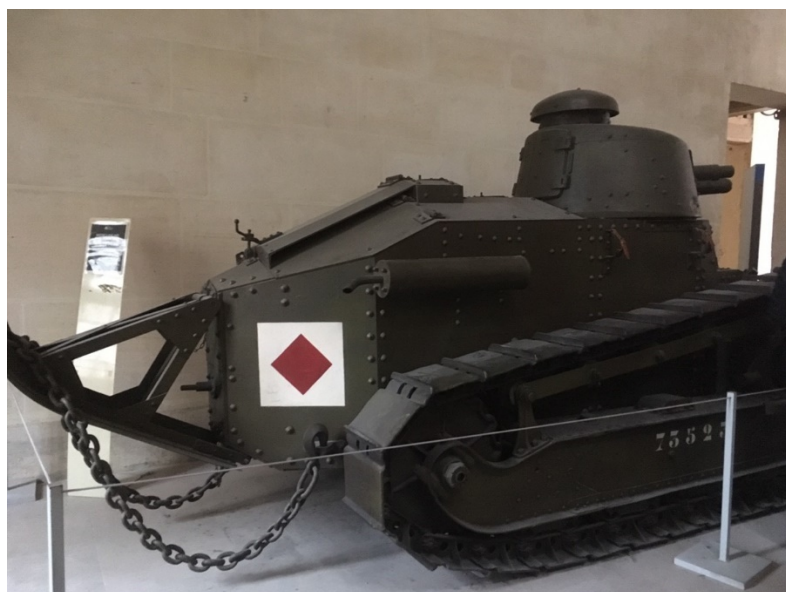
こちらはインターネットで申請をしました。しかし、ルームメイトを含めて登録したため、少し手続きがややこしくなってしまう、フランス人の知人に助けをもらいながら申請中で

す。必要な書類は①ビザ②滞在許可証③戸籍謄本のフランス語訳です。ただ、今後寮からホームステイに切り替える可能性があるので、手当がもらえるかどうか確実ではありません。

4月に行われる文学部の文化祭の準備が1月の終わりから始まりました。私は留学生チームの一員として参加しています。テーマはd'une lune (月) à l'autre (他者)ということで、私たちは舞台上それぞれの母国の月に関する詩や歌を披露し、それについて質問をしながら文学的に分析していく演劇のようなものをするようになりました。私は『荒城の月』を選び、それをフランス語に訳してみんなに読んでもらったのですが、細かいニュアンスを伝えることがとても難しく、上手くフランス語に訳すのに時間がかかりました。フランス語だけで他の学生と協力して1つのものを作り上げるといことはとても難しいことだと感じるとともに、とても貴重な経験であると感じているので、今後はさらに積極的に話したり、意見を言ったりしていいものを作り上げられたらと思います。

1月になってから、アソシエーションを通してフランス人の友人が増え、フランス語を話す機会が増えたように感じます。9月にフランスに到着した頃は全く分からなかったことも、今ではゆっくり話してもらえれば聞き取れるようになったり、以前よりも自分の言葉で伝えられるようになったりしているように思います。ただ、やはり思っていることや話したいことを伝えるということはとても難しく、いつも同じ返事だったり似たような表現しかできなかつたり、とまだまだ勉強不足だとも感じます。そんな時、アソシエーションで知り合った日本人の女性がホームステイをしてくれる学生を探している人がいると教えていただきました。その方は子供が日本人と結婚したこともあって日本人に対して優しいこと、またフランス語を伸ばすいい機会になるということも踏まえて、家賃は寮より高いですが、引っ越しをしようかと考えています。やはりせっかくフランスに留学してきたので、英語しか話せないルームメイトと暮らすよりはフランス語に触れる機会の多いホームステイはメリットが多いのかと思います。また、フランスの家庭で生活するというのもフランスの文化に触れる上でとても有意義なことだと思うので、両親とも相談しながら考えていきたいと思っています。

テストが終わってから第2セメスターが始まるまで少し余裕があったので、パリの軍事博物館と美術館を訪問しました。日本ではあまり頻繁に芸術に触れる機会を持たなかったのですが、こちらに来て多くの芸術作品と出会うことができ、有意義な時間を過ごしているように感じます。また様々な芸術に触れるうちに、特に日本の歴史や文化、絵画などの芸術について自分がいかに無知であるかを実感しています。なのでこの留学をきっかけに、今後は多くの本を読んだり美術館に頻繁に足を運んだりして、日本、さらには世界の芸術や歴史についてもっと知識を深められたらと思っています。印象に残った写真をいくつか載せておきます。



↑戦車とキャノン砲です。実際に近くで見たことがなかったので、大きさや迫力に驚くとともに、恐ろしさを感じました。戦争を体験したことのない私たちは平和であることを当たり前だと感じていますが、この平和の大切さを知り、今後も守っていくためにはこのような機会を作って戦争について知ることが大切だと思います。



↑こちらは軍服です。時代や地域によって全く色やデザインが異なっているのは興味深かったです。特に淡いブルーの軍服は塹壕戦などの際に空の色に同化するために使用されたようで、その歴史や背景などを知ることも面白いと思いました。



↑戦争の様子は絵画にも残されています。上の写真の一番右の軍服はこの作品に描かれた多くの兵隊が身に着けているものと同じです。



↑ 厳しい戦争の様子が絵画にもしっかりと記録されていました。





↑こちらの2つの写真は Musée de La Vie Romantique という美術館で撮った写真です。

小さな美術館でしたが、様々な作品があったり、このように当時の部屋の様子が再現されている空間もあつたりととても楽しむことができました。





↑こちらの3枚の写真は Musée de Montmartre という美術館での写真です。有名なモンマルトルの丘の近くにあります。Le Chat Noir はモンマルトルにあったキャバレーで、この美術館ではその歴史に触れることができます。また Suzanne Valadon のアトリエが再現された部屋もあり、とても興味深い美術館でした。この日は雪も降り、美術館の庭もうっすら白くなっていてとてもきれいでした。



↑私の部屋からの景色です。パリも冷え込み、雪が降りました。例年パリはそんなに雪が積もらないらしいのでこの日は珍しく積もった方だと思います。

フランスでの生活も5ヶ月が過ぎ、とても慣れてきたように感じます。今後も新しいことや言葉の壁などいろいろな困難にぶつかることもあると思いますが、残りの生活も悔いのないように楽しんで過ごしていきたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/01 ～2019/02/28)

1. 勉学の状況

先月の報告書に書いたように、第 2 セメスターでは比較文学入門の授業と言語学入門の授業を受講しています。比較文学の授業では今月、タヒチ出身の作家の詩を読みました。彼女の作品は 2 言語を併用していて、フランス語とは別にポリネシア語も出てきます。『詩』という難解なジャンルである上に他の言語も頻出して、読むのに苦労するのですが、そのおかげで異国情緒の漂う作品になっていてとてもおもしろいです。言語学の授業は日本の大学でも受講したことがあったので、今回は聴講という形式をとりました。文学を勉強しているだけでは知り得なかった単語も出てくるので、授業は難しいですが、先生は様々な例を挙げて説明してくださるため、比較的理解しやすいです。前は言語記号の種類について学びました。漢字のようなピクトグラム、アルファベットなどの表音文字、ひらがなのような音節文字、そして象形文字のような表意文字など様々な記号があり、そのそれぞれに特徴や利点があるというのがとても興味深かったです。

また、第 1 セメスターに引き続き、フランス語の授業も受講しています。ただ、今セメスターは留学生が少なかったせいか、中級クラスの授業は週に 2 クラスしか開講されなかったため、私は中級クラスの文法の授業と、ライティングの授業を受講しています。また、「文法やライティングはよくできているから、上級クラスに移って見たら？」と先生に勧められたのですが、登録の変更はどうしてもできないと言われたので、上級クラスの文法の授業のみ聴講生として参加させてもらうことにしました。やはり上級クラスということで、ペラペラとしゃべられる学生がたくさんいますが、彼らにも刺激を受けて、もっともっとフランス語のレベルを上げていけたらと思います。

2. 生活の状況

住宅補助の手続きを進めました。オンラインで申請を行ったのですが、記入内容に誤りがあり、訂正を行っている途中です。現在連絡を待っているのですがなかなか連絡が来ないです、、、さすがフランス、といったところでしょうか (笑) いい意味でも悪い意味でもやはり色々なことがのんびりと進んでいるように感じます。必要書類の中に出生証明書があったので、日本から持参した戸籍謄本を在仏日本大使館に持って行って出生証明書の形式にしてもらいました。手続きには書類の記入と 10€が必要で、所要期間は 3 日でした。

また、先月ホームステイのことに触れましたが、4 月から寮を離れ、ホームステイに切り替えることにしました。ホームステイを受け入れてくださったのは年配の女性の方で、息子さんが日本人の方と結婚し、日本に住んでいるということで、とても親日な方です。また、彼女はフラン

ス人ではなく、スペイン出身の方なので、フランス語が完璧というわけではないですが、とても感じが良く親切でフランス語でたくさん話していただけます。初めにホームステイ先に見学に行った際は、紹介して下さった日本人の方に同行してもらい、説明を受けました。その後、自分からホームマザーにメッセージと電話で連絡しました。文章でのやり取りは慣れているので問題なかったのですが、電話のやり取りは聞き取りづらく、慣れないので少し怖かったです。ですが、なんとか自身のフランス語でやり取りをし、少し世間話などもすることができたので、少しは私のフランス語も成長してきたのかなと感じています。1ヶ月半という短い期間ではありますが、自分のフランス語を実践するためにも、フランスのアパートメントでの生活を体験するためにもいい選択だと思うので、楽しみたいと思っています。

4月の文学部の文化祭への準備も進んでいます。正直どの学生もフランス語の聞き取り力が高く、会話についていけないことも多々あります、、、しかし、授業を一緒に受講している学生なども多くいるので、少しずつ仲が深まり、会話する機会も増えてきてとても嬉しいです。先週は発表する日本語の詩と中国語の歌の練習をしていたのですが、ヨーロッパの学生に日本語と中国語って近い？お互いに理解できる？という質問から色んな国の言葉だったり、文化だったりについて話すこともでき、とても刺激を受けましたし、楽しかったです。今後はもっともっというろいろな学生と話したいので、もっともっフランス語力、会話力を上げていきたいと思っています。

今月に入ってから大学の友人と高校時代の友人がフランスに遊びに来てくれました。気を許せる友人と日本語でたくさん話すことができ、とても良い息抜きになりました。また、今まで訪れていなかったヴェルサイユ宮殿やディズニーランドパリにも足を運ぶことができとてもいい休日を過ごせたと感じています。



↑マドレーヌ寺院です。とても厳かで神聖な場所でした。



↑オペラガルニエです。建物の見学のみしてきました。当日、ホールは閲覧禁止だったのですが、偶然少しだけ見ることができました！下の写真はよく目にする写真だと思うのですが、実際に見るとまさに豪華絢爛で息をのむほど素晴らしかったです。



↑モネの作品



↑ルノワールの作品



↑モネの『草上の昼食』

友人とオルセー美術館に行ってきました。日曜日は無料ということで多くの人でにぎわっていました。こちらの作品はどれも印象派の作品です。私は絵画の知識はないのですが、これらの作品はとても優しいタッチで描かれており、とてもお気に入りの作品です。日本でも見る機会があったし、オルセー美術館を訪れるのは2回目なので何度か目にしていますが、何度見てもとても興味深く美しい作品だなと思います。



↑チュイルリー公園



↑エトワール凱旋門





↑ずっと行ってみたかったヴェルサイユ宮殿にも足を運びました。どの部屋も広く美しく、豪華な庭もあり、当時の王室の権力の大きさが伺えます。



↑ディズニーランドパリです。こちらも友人と行ってきました。日本とはお城の色や形も違い、とても楽しむことができました。夜にはプロジェクションマッピングも見ることができ、夢の国でとても楽しいひと時を過ごすことができました。

2月に入ってからこちらはとても過ごしやすい天気が続き、もう春がすぐそこまで来ているように感じます。留学も残り3ヶ月をきり、カウントダウンが始まりました。最後まで気を抜かず努力すると同時に、こちらでの生活も噛みしめながら1日1日を過ごしていきたいと思えます。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/01 ～2019/03/31)

1. 勉学の状況

初旬に1週間のバカンスがあったため、あっという間に3月が過ぎた気がします。比較文学の授業では参考文献を全て読むようにと教授に言われたのですが、分厚く文字の細かい作品を全て読み切るのは私たち留学生にとってとても厳しい課題で、同じ留学生の友人といつも頭を抱えています。しかしすでに半分以上の授業が終わってしまい、期末テストの心配もしなければならいため、友人と少しずつ勉強をしています。3月からはポール・ゴーギャンの『Noa Noa』という作品を扱っています。ゴーギャンといえば絵画を思い浮かべる人が多いと思いますが、彼は彫刻の制作なども行っており、『Noa Noa』はその多彩な活動の一つで、彼がタヒチを訪れた際の紀行文になっています。彼はこの作品を作家としてではなく、あくまでも画家として書いています。そのため、作品も彼が風景や色から受けた魅力を表した作品になっていてとても興味深いです。時には少し侮辱的な表現も含みながら、未開の地であったタヒチの生活や自然について生き生きと表現されているところも読みごたえがありました。

言語学の授業では音声学についても学びました。しかし、専門用語が多いため、授業中は知らない言葉ばかりが飛び交い、理解できないことも多々ありました。おそらく日本語で勉強しても理解するには時間がかかると思うのですが、配布されたプリントを見たり、提示された例を参考にしたりして、少しずつ理解したいと思います。特に両唇音と歯音の違いや閉鎖音と阻害音の違いなどは興味深く、実際にどのように口を動かしながらその音を出しているかを知ると言語の発音も楽しくなると感じました。

フランス語の授業では日本でいうインターンのエントリーシートのようなものを書く練習をしました。ヨーロッパではマスターの学生や一部の学部生にスタージュと呼ばれる長期の職場体験が卒業要件として課されるようで、クラスメイトの中でもフランスでのスタージュに興味を持っている学生も何人か見受けられました。日本のESではそれぞれの企業から与えられた質問に返答する形で記入する形式が多いと思うのですが、フランスのものは自分で段落を構成しながら書き進めていきます。その中に自分の現在の状況や、その仕事をするためにどのような勉強をしてきたか、どのような知識を持っているか、自分の強みは何なのかなどを自分の求める仕事に合わせて記入していきます。私は外国での6か月間のホテルのスタージュを想定して、大学で様々な国の文学や文化を学んだことや、結婚式場でのアルバイト経験を強みとして書きました。ただ、やはり言語のレベルは関係なく、ESの類を書くという作業はとても骨の折れるものだと思います。実際に必要になることはなさそうですが、初めて自分で作成するという体験はとても貴重だし、日本との違いも垣間見られたのでとても面白かったです。4月にはスタージュに関するテストもあるようなので、しっかり復習もしていきたいと思います。

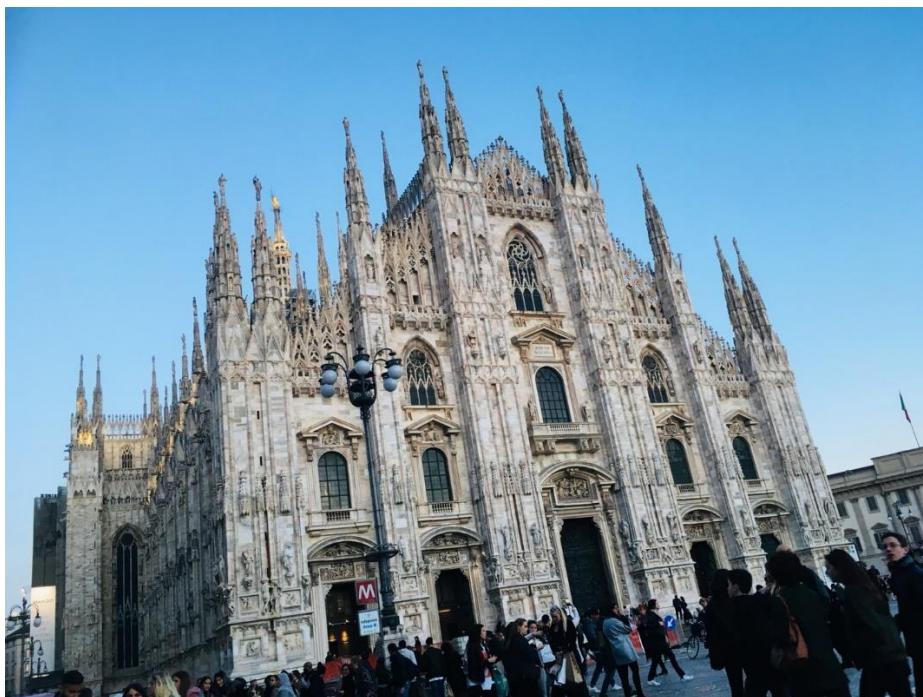
2. 生活の状況

住宅補助の手続きは進んでいません。返事がないため、4月にこちらからコンタクトを取るつもりです。ただ、住宅補助の手続きは住んでいる地域ごとにコンタクトを取る機関が決まっているのですが、最寄りの機関が年末から5月まで工事中で特定の予約しか扱ってくれないらしく、とことんついてないなと思います（笑）

次に引っ越しに関してですが、引っ越しについては1ヶ月前に知らせるようにと言われたので3月の頭に担当の方にメールで連絡をしました。その後3月の終わりに事前訪問があり、ひどく壊れたり汚れたりしてしまって修理が必要なものがないかを寮の担当の方に見てもらいました。一応すべての部屋を掃除していたのですが、特にキッチンの壁がまだ不十分だったらしく、このままの状態だと修理費が約60€かかると言われたので、ルームメイトに手伝ってもらってしっかりと掃除したいと思います。またその事前訪問には、入居時からお世話になっている寮のマネージャーが来られたのですが、会話もほとんどこなせたので、フランス語が上手になったと褒めていただきました。フランスに来た当初を思い出し、自分の成長を感じて嬉しくなりました。

今月は旅行や一時帰国などで文化祭の準備に参加できないことが多々ありましたが、4月の半ばが本番ということで、詩を覚えたり、フランス語の質問と返答を繰り返し発音練習したりしています。もともと上手に大きな声を出せないため、毎回もっと大きい声で！と注意されてしまいます、、、（笑）詩は日本語なので良くなってきたのですが、フランス語の文章ははっきりと正しい発音で強く言うことに難しさを感じてしまいます。まだまだ練習が必要ようです。他の留学生と話すことも増え、日本とは全く習慣の異なる学生の話や考え方にいつも刺激をもらえています。あと数回の練習が終わったらみんなが集まることもなくなると思うととても寂しいです。

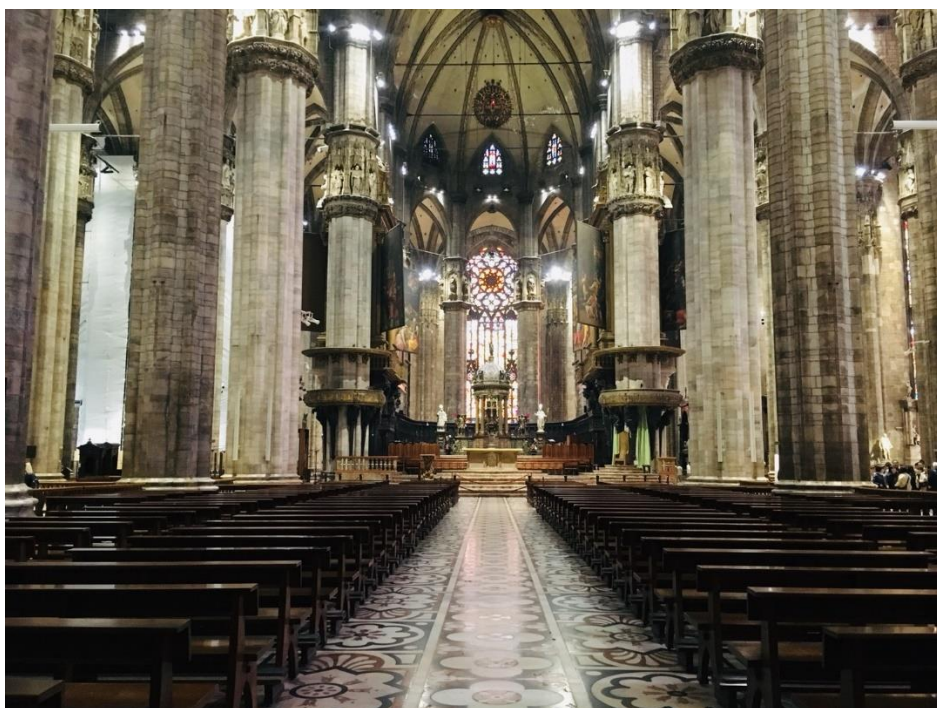
この報告書の初めに書いたように、3月の頭の1週間はバカンスだったので、この4月に就職する千葉大学の友人とヨーロッパ旅行をしてきました。ドイツのフランクフルト、イタリアのヴェネツィアとミラノ、パリの4都市を周りました。日本とフランス以外の国に行くのは初めてだったので、少し怖さもありましたが、新しい発見や出会いだらけで、とても楽しく有意義な時間を過ごせました。特にヴェネツィアは水と建物の風景がとても美しく、川や海が生活の一部になっていたのが印象的でした。また3月の半ばに諸事情のため、日本に一時帰国しました。久しぶりに家族などに会うことができ、気持ちをリフレッシュさせることができました。少し写真を紹介したいと思います。



↑ミラノのドゥオーモです。とても大きく、圧倒されました。同じ大聖堂でもパリのノートルダム大聖堂と様式や規模などが違って歴史などももっと知りたいと思いました。



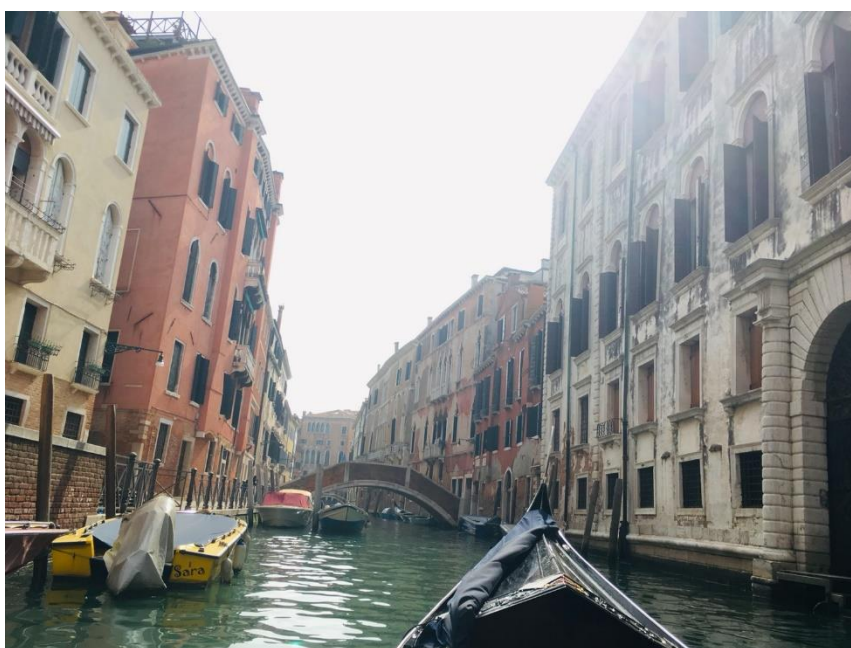
↑階段で屋上まで登りました。ミラノを一望できました。



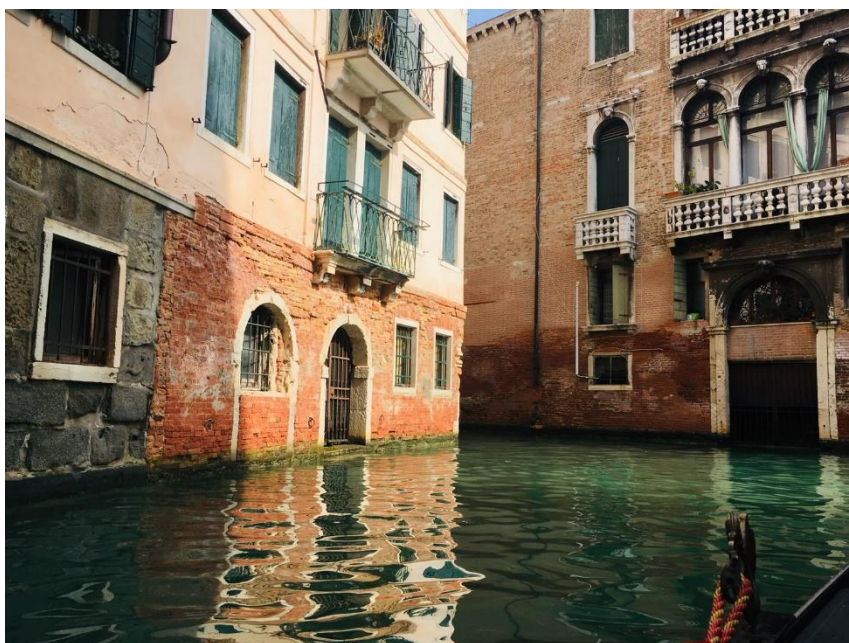
↑ドゥオーモの内部です。特にステンドグラスが美しかったのと、割と歴史の浅い聖堂という印象を受けました。



↑ヴェネツィアです。移動手段は全て船かゴンドラでした。バスや車も見かけませんでした。



↑ゴンドラに乗って街を一周しました。運転手の方が建物の歴史などを教えてくださいました。



↑水門があります。実際にこれらの建物には住民の方が住んでいるそうです。観光地ですが、洗濯物なども見かけたので生活感もみられました。



↑フランクフルトです。木組みの建物がとてもかわいらしかったです。



フランクフルトはパリに比べて古い町並みがあまり残ってないように感じました。



↑ハイデルベルクはかわいらしい雰囲気のある街でした。さすがドイツ、この時期でもクリスマスグッズのショップがやってお客さんもたくさんいました。



↑ハイデルベルク城です。栄枯盛衰を感じられる建物でした。



↑ハイデルベルク城からの景色です。明るい屋根の色が薄い色の壁に映えてとてもきれいでした。

3月は旅行などであっという間に過ぎていきました。来月には引っ越しや文化祭があるのでまたあっという間に過ぎそうです。5月にはテストが控えているので気を引き締めてしっかり勉強しつつ、フランスの生活を楽しんでいきたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/01 ～2019/04/30)

1. 勉学の状況

5月の半ばに期末試験があることから、第2セメスターの授業も大詰めを迎えています。比較文学の授業では期末試験にプラスして期末レポートの提出が課されました。テーマは特に決まっておらず、授業で扱った「Au vent de la piroguière」という詩集から10ページほどを選んで自由に詩を分析したり感想を書いたりするという課題です。私は日常的な話題をテーマにした章から10ページ・計6つの詩を選びました。作者がポリネシア出身ということで、その世界観を伝えるために現地の言葉やその地を創造させる表現を詩に織り込むことが多く、作品は異国情緒漂うものが多いです。また、よくある日常的なテーマを扱い、自由で難解さを取り払うことで、誰にでも読みやすい作品になっています。ただ、やはり詩を読解することは日本語でもフランス語でもとても難しいので、レポートを書くのには苦戦しています。さらに期末試験の復習も進めており、比較しながら4つの作品を理解していくのは楽しいのですが、授業の内容がとても難しく、毎日苦戦しています。

聴講生として受けている言語学の授業は4月で授業が全て終わりました。4月に入ってからは形態素の種類や単語よりも文の構成に関する授業でした。特に文法性・理解性・容認度の授業はとても興味深かったです。文法的に正しい文だとしても意味をなさない文もあれば、反対に文法的に正しくなくとも意味は読み取れる文もある、というものです。また、容認度の点では、公共の場や目上の人に使う公用語と友人たちとの間で使うような砕けた言語があり、それらは地域や状況によって変わってくるということを学びました。また先生は言語を習得するということは同時にその言語の規則を学ぶことだという風におっしゃっていました。私も言語を習得しようとしている身として、それが言語習得の楽しさであり、難しさでもあるということを実感しています。文法の正しさはもちろん必要ですが、口頭でのコミュニケーションにおいて必要なのはむしろ理解度や容認度だと私は思います。どれくらいのレベルでそれらを重視するかは状況によって変わってくると思いますが、この規則を習得することはやはりとても難しいと思います。この授業をきっかけに言語学にさらに興味を持ったので、今後も継続して勉強していけたらと思います。

フランス語の授業では関係代名詞や受身、リライトなど基礎的な授業を受けました。また、今月は毎週のようにテストがありました。文法は得意なのでそれほど難しいと感じなかったのですが、ライティングのテストやテキストのリライトの授業はまだ私にとって難しいです。テストではインターン向けのモチベーションレターの作成をしたのですが、文章の構成や言い回しが上手くいかず、満足したものを書くことができませんでした。来月に最終のテストがあるのでそこで挽回したいと思います。また第2セメスターではオーラルの授業がないので、授業中にな

るべく発言をするようにしています。ヨーロッパの学生は先生の質問に対して躊躇うことなくポンポン答えを言っていくので、私もそれに負けないように答えるようにしています。初めは全く答えられなかったのですが、この8ヶ月で少しは進歩したと感じています。

2. 生活の状況

先月の報告書でも記入したように、4月の頭に引っ越しをしました。以前は学生寮に入り、中国人のルームメイトと生活していましたが、現在はホームステイという形態で、フランス人の年配の女性の方と二人で暮らしています。寝室を一部屋貸していただき、キッチンなどは自由に使わせてもらっています。食事は含まれていないので自分で用意していますが、掃除や洗濯などはホームマザーにやってもらっています。毎日日常会話から、ニュースや政治に関する話、フランスと日本の文化の話まで様々な会話ができるのでとても楽しいです。また、実際にフランス人の生活を体験できているので、とても貴重な経験をさせてもらっていると感じています。引っ越しはルームメイトに手伝ってもらい、ホームマザーにも車で駅まで迎えに来てもらいました。スーツケース2個、バック3つという大量の荷物になってしまったので、日本に帰国する際にはたくさん処分していかなければ、と思っています。

そして、1月から準備してきた文学部の文化祭も4月半ばに本番を迎えました。直前まで全員で集まることができなかつたり、学生の1人が体調不良で文化祭に参加できなくなつたりなど、ハプニングも多々ありましたが、無事に成功させることができました。私たちのパフォーマンスはステージ上で異なる言語を母国語として持つ8人が、月に見立てたバランスボールに乗って各国の月に関する詩や歌を披露し、それについて簡単な会話を行うというパフォーマンスでした。私は諸行無常を歌い、古き良き日本の世界観をよく表現していると思った『荒城の月』を、少しノスタルジックなBGMと共に詩として発表しました。他の7か国はフランス、イギリス、イタリア、ルーマニア、ロシア、ポーランド、中国で、イギリスの学生はBruno Marsの『Talking To The Moon』を歌つたり、フランスの学生はボードレールの詩をクラシック音楽と一緒に朗読したりとバラエティに富んだ演出をしました。特にステージ上で発表する私たちや、一緒に演奏してくれる学生はとても緊張していたのですが、全員が楽しみ、よいパフォーマンスができたのでみんなとても満足していました。観客の皆さんも興味を持って聞いてくださり、文化の違う人々が一体となった感じがし、言葉にできないような感動がありました。とても貴重な経験をさせてもらったと思います。パフォーマンスの後はよりみんなが仲良くなり、会話もとても増え、いい仲間に出会えたなと嬉しく思います。この文化祭を経て、私はコミュニケーションを取ることへの怖さや躊躇いが少し軽減されたように感じます。以前は内気で会話に消極的だったため、日本でもフランスでも周囲の人たちに積極的に話しかけることができませんでした。しかし、チームで活動していく中で、特にヨーロッパの学生は間違いを気にせずに積極的に話したり、自分の意見をはっきりと述べたりと自由に会話していると感じました。私は間違いを気にしたり、周りに意見を合わせてしまつたりすることが多いので、このような学生の姿勢にたくさん刺激を受けま

した。今では拙いフランス語でも周りに伝えようと努め、コミュニケーションをたくさん取るようにしているので、会話力の上達を感じるとともに、消極的な自分を少し変えられたように感じています。このような機会を得られ、自身を成長させられたことは本当に自分の自信になったし、とても良い経験になったと思います。

次に、就職活動のことについて少し触れたいと思います。4月の頭にロンドンで開催された「ロンドンキャリアフォーラム」へ参加しました。私は事前にESの提出などを行わなかったのですが、面接などはしなかったのですが、2日間でいくつもの企業の説明会に参加することができました。興味のある業界や企業を深く知ることができたとともに、就職活動に対してさらなる焦りを感じました（笑）当日は気になる企業にESを提出して帰ってきたので、後日オンラインで面接を2つ行いました。ロンドンまで足を運ぶのは少し大変ですが、こちらにいと日本に比べ、圧倒的に得られる情報が少ないと思うので、どのような形だとしても参加してよかったと思っています。少しずつ自己分析や企業研究、ESの提出などを行い、いよいよ本格的に就職活動が始まってきたという気がしています。焦りはありますが、フランスでやるべきこともまだまだ残っているので、自分のペースで進めていけたらと思っています。

フランスでの生活も残りわずかとなり、事務手続きを始めたので、一つずつ記入したいと思います。

1. 携帯電話の解約

私はFreeという会社のSIMカードを契約しているのですが、この会社は手紙での解約手続きしか行っていないようなので、帰国の約1か月前に○月○日に解約したいという旨を明記して郵便を送りました。

2. 住宅補助の手続き

書類を郵送してから音沙汰が全くなかったのですが、フランス人の友人にお願いをして電話をしてもらいました。電話で催促して、追加の書類をオンラインで提出して、また返事がなくて電話して、の繰り返しでした（笑）帰国の時期が近付いていることを伝えると、なるべく早く対応すると言われましたが信用できるのか、というところです。フランスの行政機関というものは手続きに本当に時間がかかり、書類を提出しても返事が返ってこないことはざらにあるようです。なので対応してもらえるまで何度も電話などで催促するのはフランス人にとって当たり前だそうです、...

3. 銀行口座解約の手続き

こちらはまだ行っていないので来月記入したいと思います。

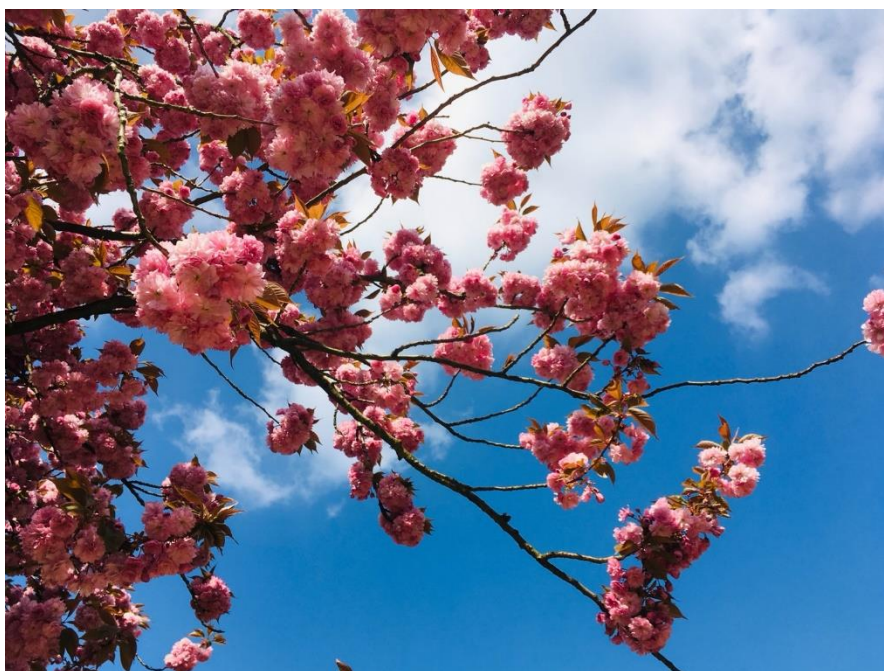
バカンスや週末を利用して少し観光ができたので写真を紹介したいと思います。



↑ロンドンで。ハリーポッターの舞台になった駅です。私はハリーポッターの大ファンなので感激でした。



↑こちらもロンドン。街のいたるところに電話ボックスがありました。中には Wifi と書いてあるボックスも。本当に使えるのかは分かりませんが、時代によって使われ方も変わってきているようです。



↑ソー公園でお花見をしました。日本でよく見る桜とは種類が違うようでしたが、とてもきれいでした。公園も緑がたくさんで気持ちよかったです。肌寒い日でしたが、春の訪れを感じられました。日本人もたくさん見受けられました。フランス人によると最近では中国人や韓国人もお花見する人が多いそうです。



↑こちらはフランス語の授業の一環で街のアート作品を鑑賞しに行ったときに見つけた作品です。このモダンでキャッチーなイラストはいたるところで見られました。これ以外にも様々なイラスト・アート作品が描かれていて、パリはやはり芸術作品の溢れる街だと感じました。



↑ルーブル美術館です。水曜と金曜は夜も開館しているので少しだけ鑑賞してきました。とても短い時間だったので帰国前にもう一度行けたらと思います。



↑ヴォージュ広場。近くにあるヴィクトル・ユゴー記念館とカルナヴァレ美術館を訪れるつもりだったのですが、どちらもリノベーションの真最中で入ることができませんでした。来年以降工事が終わったらまたリベンジしたいと思います。



↑ヴォージュ広場近くのアトリエで見つけた作品です。小さなアトリエがたくさんあり、様々な最先端のアートを鑑賞することができました。これはあの有名なフランス革命の絵画と最近の黄色いベスト運動をかけたとても興味深い作品です。



↑こちらは家の近くにあるヴァンセンヌの森を散歩していた時に見つけました。これはただの飾りの電話ボックスではなく、ブックボックスになっていて、本が置かれています。誰でも無料でこの本を持っていくことができ、いらなくなった本を置いていくこともできます。このボックスのおかげで本は捨てられることなく、新しい読み手に出会うことができるという素晴らしいシステムです。私はツイッターでこのブックボックスに関する記事が話題になっているのを知り、日本にいた時から興味を持っていました。散歩中に偶然このボックスに出会ったので、宝物を発見したようで嬉しかったです。



↑チュイルリー公園です。いろいろな花が咲き誇り、春が来たことをしみじみと感じます。この日は天気良かったこともあり、たくさんの方が公演を散歩したり、ピクニックをしたりしていました。太陽が出ている日が少ないからか、フランス人は本当に外で日光に当たるのが好きだなと感じます。

最後に、フランスに来て8ヶ月が過ぎました。あれほど長いと思っていた留学も残すところ3週間ほどとなりました。テストや帰国の準備などやることはたくさんありますが、残りのフランスでの貴重な生活を楽しみ、自分の経験をより濃いものにしていけたらと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/01 ～2019/05/22)

1. 勉学の状況

4月に引き続きバカンスが一週間ほどあったため、学業面において5月はほとんどテストを残すのみとなっていました。先月の報告書で記入したようにバカンスの間は比較文学の授業のレポートを書いたり、テスト勉強をしたりして過ごしました。比較文学のレポートでは日常生活をテーマにした詩を6つほど選び、他の詩と比較しながら分析したり、比喩などに注目しながら分析したりしました。第1セメスターでも3回ほどレポートを書く機会がありましたが、やはり自分の言いたいことをフランス語で上手く伝えようとするどどの動詞を選ばばいいのか、どのような言い回しを使えばいいのか未だに迷ってしまいました。それでも少しはスラスラと表現が出てくるようになったので、ライティングも成長を感じ、嬉しくなりました。また、学期末試験ではこれまで扱った参考図書3冊の抜粋を比較し、女性の見方の観点などから共通点や相違点を見つけ、文章を分析していくという課題が与えられました。設問はその論述1問だけだったのですが、制限時間2時間の中でテーマを決めて、構成を立て、1つのしっかりとした論述を組み立てていくのはとても難しく、時間が足りませんでした。後から思えばもっとこういう書き方や組み立て方もあったのに、とも思いましたが、とりあえず無事に試験を終えられてよかったです。

フランス語の授業ではメールの書き方について学びました。特に先生に対して何か質問や伝えたいことがある際にどのようにメールを書くのかや、目上の方や業者に対して何かお願いをする時を想定したメールの書き方を教えてもらいました。意外と名前や住所を入れる場所を知らなかったり、メールの締め方が分からなかったりしたので、この形式をしっかり学べて良かったと思います。また、最後のライティングの小テストでは自分の母国にホームステイする友人に対してどのように振る舞うべきかやどのようなことに気を付ければいいのかなど、アドバイスを文章を書きました。私は特に挨拶の仕方、公共交通機関やホームステイ先での振る舞い方について書きました。テストの後にはみんながどのようなことについて書いたかを話し合ったのですが、各国の文化の違いに驚くこともあり、とても面白かったです。特にフランスやイタリアでは、挨拶の際に「ビズ」という互いの頬をつけるキスのようなものをするのですが、フランス人はその挨拶が全世界共通で、当たり前だと思っているということを先生が教えてくださいました。現在は慣れましたが、フランスに来た当初は私にとって新鮮過ぎて、あまりやりたくないと思っていたことを思い出しました(笑)最後にフランス語の授業で約1年間お世話になった先生と写真を撮って挨拶をしましたが、その際にフランス語上達したね、スラスラ話せるようになったねと褒めていただいてとても嬉しかったです。

2. 生活の状況

先月に引き続き事務手続きを始めたので、一つずつ記入したいと思います。

1. 携帯電話の解約

書類を郵送してから2週間ほどで解約を承りましたという旨のSMSを受け取りました。無事に解約できるようで良かったです。

2. 住宅補助の手続き

何度も電話をかけた結果、提出書類は不足なく全てそろっているため、待つしかないと言われました。友人にももうやることはないし、次の連絡はおそらく入金日と金額についての連絡だと言われたのですが、先日再び連絡が来て、追加の書類提出を求められました。それも以前郵送で送ったものだったので、どうして再提出を求められるのか全く理解できないのですが、手続きが進まなそうなのでネット上のアカウントから写真を提出しました。さすがフランス、どこまで行ってもフランスで少し呆れるほどです、...

3. 銀行口座解約の手続き

日本人スタッフのいる店舗で口座を開設していたので、解約の手続きもスムーズにできました。ただ、住宅補助の手続きが思うように進まなかったため、入金を確認できるまで待ってもらうように伝えました。最初に払ったデポジットの500€と口座に残ったお金は海外送金の形で日本の口座に返金されるそうです。

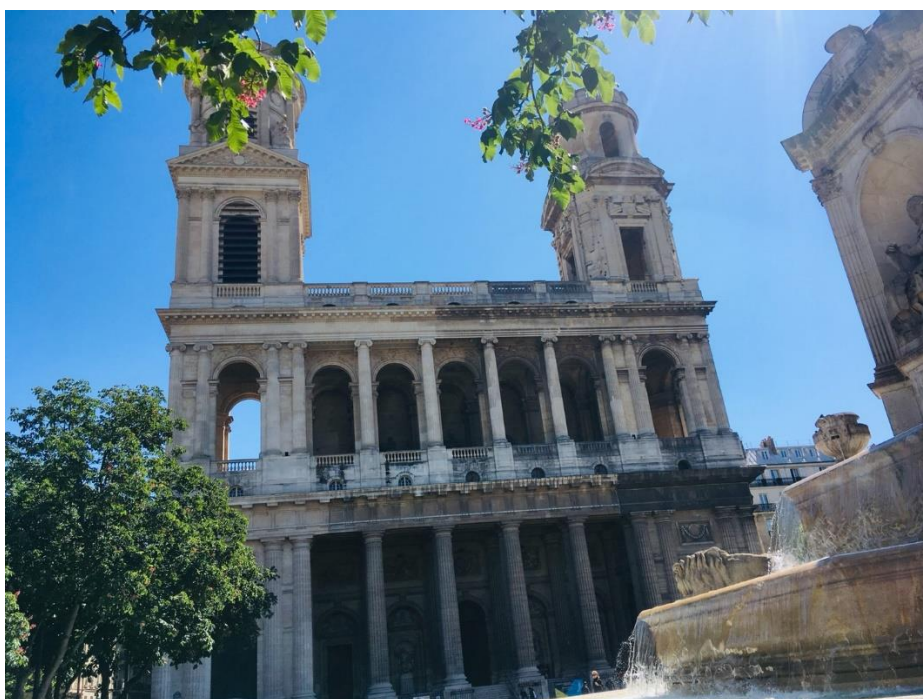
手続きではありませんが、帰国の準備に関することも書いておきます。まず航空券に関しては渡航の際にエールフランスで往復券を購入したので、変更せずにそのまま使用しました。荷物がとても増えたので、先月の引っ越しの際にもう1つより大きいスーツケースを購入しました。エールフランスでは日本で航空券を購入した場合、預け荷物が2つまで無料で許可されているので何とか2つに収めて帰ることにしました。私は3月に一時帰国した際にできる限り持ち帰ってきたので、船便などは利用しませんでした。送った方が荷物も少なく身軽で帰国できたかもしれません。各スーツケースで許容されている容量が23キロなのですが、どちらもギリギリで、とても重たかったです(笑) 空港まではタクシーで行こうと思っていたのですが、偶然友人の都合がついたため、車で送ってもらいました。パリ市内や近郊からシャルルドゴール空港までタクシーやUberなどを利用すると50€以上かかるようなのでお金がかからずラッキーでした。

次に就職活動についてですが、先月受けた2社の次回選考に進めることになり、帰国してから面接を行うことになりました。また、その他の企業にもオンラインでESを提出するなどして少しずつ就職活動を進めていきました。帰国してからの面接や説明会、選考の予定を組み始めたので、帰国しても忙しい日々が続くそうです。なんとか今年度で卒業したいので今後はより気合を入れて進めていきたいと思っています。

期末試験が終わってから約1週間あったので、最後のフランス生活を満喫しようと思い、気になっていた場所に毎日足を運びました。写真を掲載しておきます。



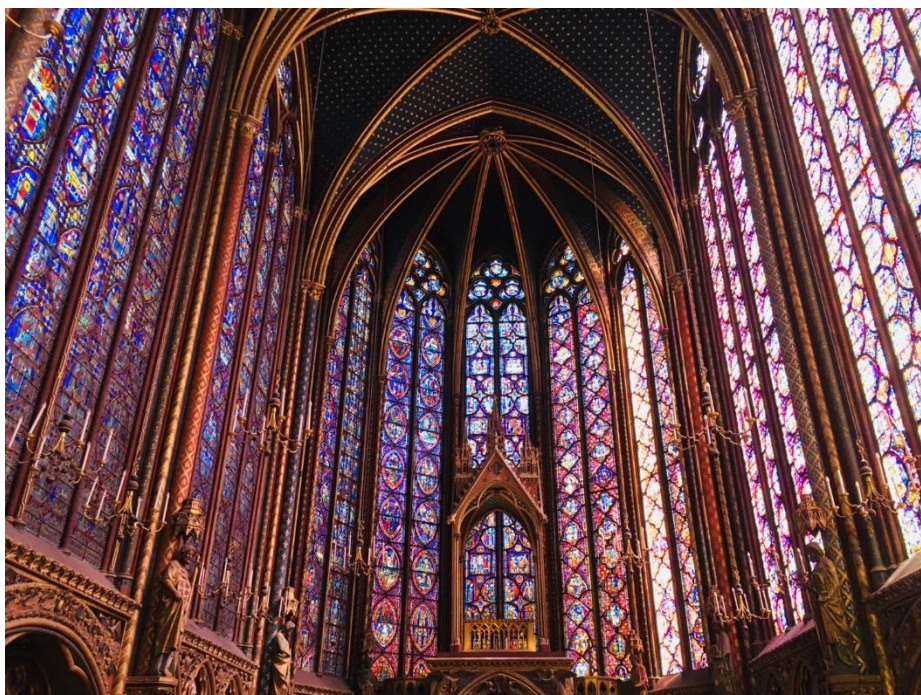
↑ジャックマールアンドレ美術館です。エドゥアール・アンドレとネリー・ジャックマール夫妻の集めたコレクションと彼らの邸宅を鑑賞できる美術館です。様々な芸術作品がある上に、とても豪華な邸宅もそのまま残されているので、美術好きな人だけでなく、19世紀のブルジョワの生活に興味のある人にもおすすめの美術館です。



↑サン・シュルピス教会です。目の前に大きな噴水があり、とても素敵な場所でした。



↑リュクサンブール公演です。この時期は花々がとてもきれいでピクニックには最適です。



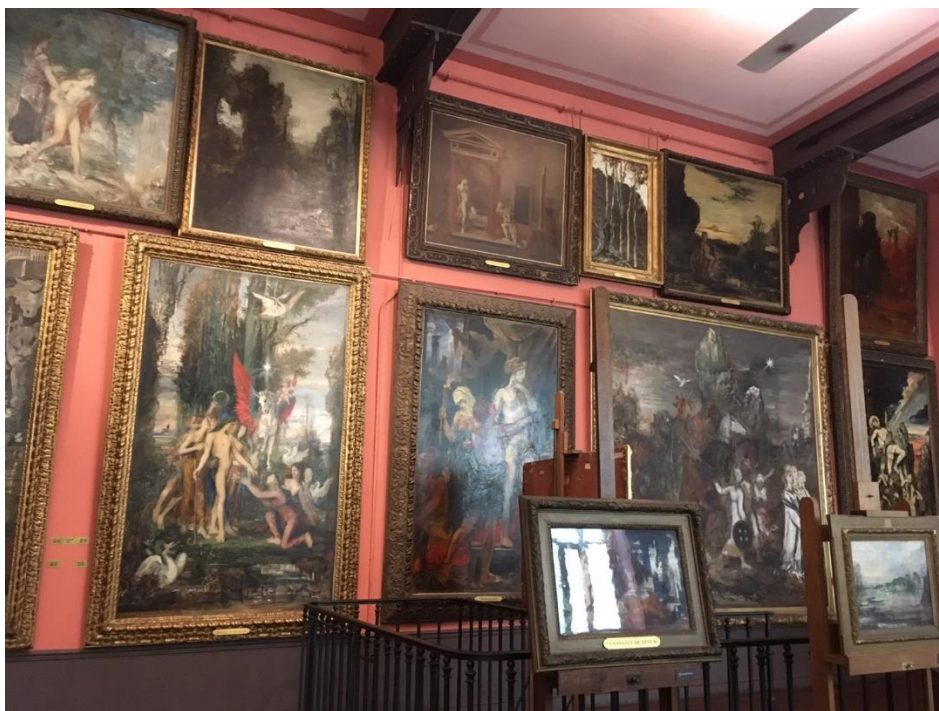
↑サント・シャペルです。ずっと行って見たかった教会だったので、とても感動しました。建築様式や構造も他の教会と全く異なっていて無数のステンドグラスが印象的でした。



↑ジュテームの壁です。前回訪れた際は柵が閉まっていたのですが、今回は近くで見ることができました！



↑カナルサンマルタンです。とても大きくてきれいな川でした。水面に映るパリの伝統的な建物がとても綺麗で見とれてしまいました。



↑ギユスターヴモロー美術館です。以前に訪れた際には閉館していたので帰国前に来ることができて良かったです。この日は美術館の中で小学生くらいの子供たちが絵画を鑑賞しながらスケッチをしていて、さすが芸術の国フランスだと感じました。



↑ルーブル美術館です。これはナポレオン三世のアパルトマンの一部で、ルーブル美術館は何度も訪れましたが、この部屋には初めて入りました。豪華絢爛で当時のナポレオン三世の栄華が伺える展示になっていました。



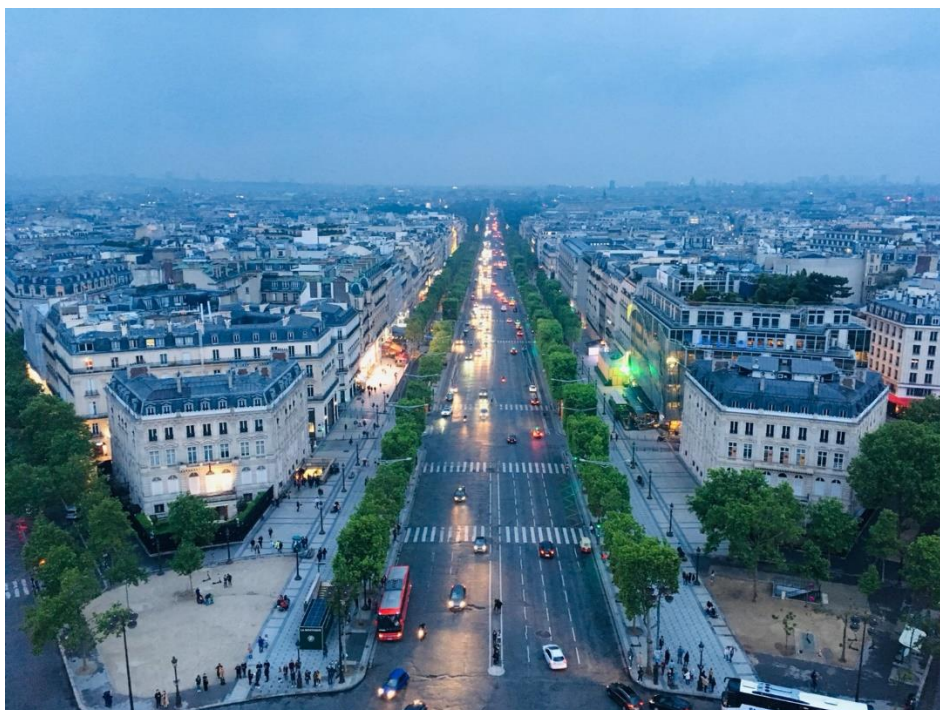
↑ロダン美術館です。これまで彫刻にはあまり興味がなかったのですが、ユゴーなど作家の彫刻などもあって楽しめました。



↑マルモッタンモネ美術館です。モネの有名な作品のほとんどはオルセー美術館やオーランジュリー美術館に展示されているのですが、こちらも興味深い作品がたくさんありました。私は印象派の作品が大好きなので、水蓮以外の作品もたくさん鑑賞できて大満足でした。



↑こちらはポンピドゥーセンターからのパリの眺めです。高くなっているところがモンマルトルの丘で、凱旋門やオペラガルニエなども見ることができました。パリが一望できるようになっているのでパリの観光にはおススメのスポットです。



↑凱旋門から見たシャンゼリゼ通りです。初めて凱旋門に登ったのですが、思った以上に素敵な夜景でした。



↑こちらはホームマザーにおススメされて訪れたアトリエ・デ・ルミエールでの写真です。開館してまだ約1年という新しい芸術センターで、プロジェクションマッピングを駆使した演出が行われています。私が訪れた時はゴッホのプログラムとジャポニズムのプログラムが上映されていました。映像で芸術作品に触れられるので、普通の美術館はつまらないという人でも気軽に楽しめると思います。



↑帰国の前日にフランス人の友人たちにフランス料理の美味しいレストランに連れて行ってもらいました。こちらは鴨肉のプレートでとっても美味しかったです。苦手ですがワインも少したしなむことができました。お世話になった友人たちととてもいい思い出作りができました。

5月に入り、ついに日本への帰国の日が迫ってきました。正直なところ、フランスに来てから年明け頃まではずっと日本に帰国したいと思っていました。「住み慣れた国を離れて生活する」ということの難しさを身に染みて感じ、それに対応できない日々が続いたからです。文化や価値観、生活習慣が全く違う人達とコミュニケーションを取って上手く生活していくことは決して簡単なことでないことは大方の人は想像がつくと思いますが、やはり実際に生活してみないとその大変さや辛さ、もどかしさのようなものは体験できなかったと思います。全てが初めての経験だったため、自分の弱さを実感し、今までの自分らしく強く生きることができなかったことに今でも後悔を感じています。でもその一方で少しずつでも努力が実を結ぶことを実感したり、自分の弱点だと思っていたところが少し改善されたりと喜びを感じる場面も多々ありました。また、様々な言語や価値観、生活習慣を持つ人々とコミュニケーションを取るという経験は自身の固定概念を良い意味で壊すことや、多角的に物事を捉え、様々な視点から物事を批評・分析する力をつけることにつながったと思っています。そしてこれまでと全く異なる環境に身を置くことで、自身についてじっくりと考える時間もあったため、自分の強みや弱み、自分でも把握できていなかった自身の特徴のようなものについても深く考察できたかなと感じています。つまり、良いことも悪いこともありましたが、「常に後悔しない選択を」という言葉を心に留め、高校の頃からずっと憧れていた留学に留年してでも思い切って挑戦できて良かったと思っています。この経験を今後の就職活動や社会人生活、将来のキャリア形成に活かしていけたらいいなと思うと同時に、また挑戦の機会があればフランスの方や様々な国の方々と関わられるような仕事をしていけたらと思っています。